

環境基金創設について



政府は2050年でCO2削減目標を現状比60%削減の驚くべき方針を固めた。この目標は抜本的技術革新がなければ達成しない。

また、次世代を担う青少年の高まりが必要である。

特に子供達が行動を起こす為には知識を教えるより体験させると実に7倍の効果が出る。その行動支援の資金を作る為、「ファイフティファイフティ」の仕組みを提案する。

学校で省エネに取り組み、光熱費を節約出来たお金をすべて行政に返すのでなく半分は学校で受け取り環境学習の資金として積み立てる。

身近な対策が目に見える教材や体験学習に代わったりで省エネ対策・お金の節約・環境対策と一石三鳥の効果を生む。今の環境の楽しさ・癒しの価値観をお金に換算し基金として積み立

てる。

その方法を官と民は合同で考えるべきで町長の考えを問う。

環境に負荷をかける企業に再利用資源（古新聞・古雑誌）を換金して基金で出してもらうことを町長は能動的に示すべき。

パークゴルフ場が最新の日本芝草学会の研究でCO2削減効果が高いと示された。この研究を整理して世界に向けて普及を行う支援に団体ツアーからコース占用料金をとるべき。

CO2削減に相反する夜間照明を即止めて削減できた電気代の半分を使い、環境に意識の高い子供達を育成する環境基金の創設を行うべき事を町長に問う。

町長

これまで、町民の意識向上のため、町の広報紙で省エネに関する記事連載してきたほか、町民などから構成する「幕別町

エネルギー対策推進委員会」を設置し、町全体での地球温暖化対策に取り組んでいる。

学校に対しては、出前講座などで省エネ普及指導員が訪問し、学校や自宅で省エネ対策に取り組むことの意義をお話し、ある学校では、授業の中で省エネについて学んだ内容を壁新聞としてまとめるなど、子どもたち自ら環境意識を広げる動きが活発になってきている。

提言のあった「ファイフティ・ファイフティ」の仕組みづくりは、子どもたち自らが学校で省エネ対策の一環として光熱水費の節約に努めた結果、一定の対価が補償されることで、省エネへの動機付けの観点から有効な手法の一つと理解できるが、省エネ対策は、広く町民や国民、さらには多くの企業の参加の下に進めていくことを理想とし、その取り組みにより得た利益はより多くの方々にお返しすること、教育の観点から大切に考える。

学校での子どもたち一人ひとりの小さな省エネの取

組みが大きな輪となって広がり、そこで節約されたお金や資源が、結果として広く町民に還元され、あるいは限りある地球資源の有効活用にもつながることの大切さと喜びを理解してほしい。

今後も先進地の事例等について調査をするが、現状では、ファイフティ・ファイフティの仕組みづくりやこれに係る基金の創設については、難しいものがあるうと考える。

パークゴルフ場を通じての環境問題も、よりよい方向性があるのだと思う。

札内川の河川敷のゴルフ場や国際ゴルフ場もそうだが、一人100円の寄付をいただき、これを積み立てて、現在、環境整備に使っている事例がある。

今後考えられる、ふるさと納税に係わっての寄付金条例や、いろいろな条例の中に、パークゴルフに係わることも、今後、検討していく。



パークゴルフ場は環境によりよい効果があるのだということを普及啓蒙できるよう努力したい。

パークゴルフ場の照明については、短い夏の期間を、愛好者の皆さんに楽しんでもいただきたい思いの照明である。

環境とは別の角度から、町民の皆さんに楽しんでいただき、健康増進、あるいは鋭気を養っていただくための施設利用であり、パークゴルフ場の照明を消すということは難しい。利用者の状況等を見ながら、節減に努めたい。